

## 日本バドミントン小史 大会使用球が陸鳥から水鳥に変わったのはいつか？ 答 1963年

西暦	元号	年	月	日	～日	世界	国内	規(定)程の制定・改正
1893	明治	26						The Badminton Association の創立(英・サウスシー 14クラブ)統一ルールの作成
1899	明治	32	4	4				第1回全英選手権大会開催(ロンドン)
1934	昭和	9	3	10				ナルト・ルール(岡 藤吉編)35条 細則イ～ヌ
1934	昭和	9	7	5				国際バドミントン連盟(IBF)の創立(イングランド)9つの国と地域
	昭和	14	7					横浜YMCAにバドミントンクラブ結成
	昭和	15	5	15				神奈川県協会設立
	昭和	16	4	1				慶応義塾大学バドミントンクラブ結成
	昭和	16	12	8				～20.8.15. 太平洋戦争
	昭和	21	11	2				日本バドミントン協会(NBA)創立 会長空席 理事長 宮沢宏之 事務所は宮沢宅
	昭和	22	4	1				日本バドミントン協会 初代会長 白山源三郎 副会長 白石兼作 理事長 宮沢宏之
	昭和	22	4	1				福島県協会設立
	昭和	22	5	15				東京都協会設立
	昭和	22	10					関東学生連盟発足(慶応、明治、立教大学)
	昭和	22	11	1				大阪府・福井県協会設立
	昭和	23	1	20				福岡県協会設立
	昭和	23	1	31				石川県協会設立
	昭和	23	2	11				愛知県協会設立
	昭和	23	3	30				山梨県協会設立
	昭和	23	4	1				北海道・岩手・千葉・岐阜・三重県協会設立
1948	昭和	23						～24年 第1回トマス杯大会開催(英・プレストン) 優勝 マラヤ(現在のマレーシア)
	昭和	23	5	8	～9			第1回全日本バドミントン選手権大会開催 第二師範女子部(現在の東京学芸大学)
	昭和	23	6	5				宮城県協会設立
	昭和	23	6	10				長野県協会設立
	昭和	23	10	1				広島県協会設立
	昭和	23	12	11				岡山県協会設立
	昭和	24	3	10				最新国際競技規則書発行(全日本バドミントン体育会・宮沢宏之編)35条 細則イ～ヌ
	昭和	24						事務所を神田YMCAへ移転
	昭和	24	4	1				新潟・山形・富山・滋賀・長崎・香川県協会設立
	昭和	24	4	5				バドミントン規則発行(1939年のIBFルールを和訳)日本バドミントン協会・山田文雄編 21条 ライン 幅は一寸半 白、黒他明瞭な色 ポストの高さ五呎一寸 ダブルスと男子 シングルスは十五点或は二十一点 婦人シングルスは十一点 セッティング 解説一～ 五 用語解説
	昭和	24	5	5				高知県協会設立
	昭和	24	9	18				群馬県協会設立
	昭和	24	10					国体公開競技種目となる 第4回東京大会(男子単複の2種目)
	昭和	24	10	17				シャトルコック公認規定制定20条
	昭和	24	11	23				日本体育協会加盟
	昭和	24	12	20				鳥根県協会設立
	昭和	24	12	21				和歌山県協会設立
	昭和	25	1					機関紙「JBA」創刊
	昭和	25	1	15				青森県協会設立
	昭和	25	1	25				秋田県協会設立
	昭和	25	4	1				京都府・山口・愛媛・大分県協会設立
	昭和	25	7	30				兵庫県協会設立
	昭和	25	10	3				奈良県協会設立
	昭和	25						第5回国民体育大会(愛知)・正式種目(一般・高校男女と教員男子団体の5種目)
	昭和	25	11	23				全日本学生連盟設立 会長・奥井復太郎(慶応大学学長)
	昭和	25						第1回全日本学生バドミントン選手権大会開催(横浜市)
	昭和	25						全国高等学校体育連盟バドミントン部設立 部長・柳 一夫
	昭和	26	1	13	～14			第1回全日本高等学校バドミントン選手権大会開催(横浜市)
	昭和	26						公認審判員資格審査規定制定13条
	昭和	26	4	1				佐賀県協会設立
	昭和	26						機関紙「NBA」創刊
	昭和	27	2	16	～17			第1回全日本実業団バドミントン選手権大会開催(東京都)
	昭和	27	3	19				国際バドミントン連盟(IBF)に加盟
	昭和	27						公認審判資格審査規定制定

	昭和	27	4	1		埼玉県協会設立
	昭和	27	7	21		栃木県協会設立
	昭和	28	4	1		茨城・静岡県協会設立
	昭和	28	5	4		大会運営規定制定5章52条 第3ゲームの前休憩5分、副審、着衣単一色、放棄試合は2-0 15-0 15-0とする 審判用語
	昭和	28				事務所を岸体育館へ移転
	昭和	29	4	1		熊本県協会設立
	昭和	29	7	10		鳥取県協会設立
	昭和	29				～30年 第3回トマス杯大会に初参加
	昭和	30	4	1		競技規則改正22条 インターバル5分以内
	昭和	30	4	1		徳島県協会設立
	昭和	30	8	1		鹿児島県協会設立
1956	昭和	31				～32年 第1回ユーパー杯大会開催 優勝 USA
	昭和	32	4	1		宮崎県協会設立
	昭和	33	2	27		用具検定規定制定17条 ネットを追加
1958	昭和	33				IBF メートル法採用
	昭和	33				全国社会人連盟設立(全国実業団連盟と合併)
	昭和	33				第1回全日本社会人バドミントン選手権大会開催(札幌市)
1959	昭和	34				アジアバドミントン連盟(ABC)設立
	昭和	34	7	30		アジアバドミントン連盟(ABC)に加盟
	昭和	35	4	1		競技規則改正22条 審判用語1～35追加
	昭和	35	5	1		大会運営規定改正12章75条 年次大会8 天井6米 区域1.5米 余積1米 照明300ルクス、事故タイム10分以内、副審、白一色、放棄試合
1960	昭和	35				IBF RECOMMENDATIONS TO UMPIRES 制定
	昭和	35	9	1		沖縄県協会設立
	昭和	36	9	1		公認審判員規定制定10条 現行公認審判員資格登録規定相当
	昭和	36	7	25		日本実業団連盟設立 会長・韮 勉(日本電信電話公社社長)
	昭和	37	4	1		日本教職員連盟設立 会長・栗本義雄(日本体育大学学長)
	昭和	37				ラケットの推薦制度始まる
	昭和	37	8	10	～11	第1回全日本教職員バドミントン選手権大会開催(東京都文京区)
	昭和	38				競技規則改正22条 漢数字を算用数字に
	昭和	38				公認審判員資格審査委員会規定制定6章27条 現行公認審判員資格登録規定相当
	昭和	38				第17回全日本バドミントン選手権大会で水鳥シャトルを採用
	昭和	39	6	6		審判員心得制定33条 現行公認審判員規定相当 審判用語1～17改正
	昭和	39				第6回トマス杯大会を東京で開催
	昭和	40				～41年 第4回ユーパー杯大会に初参加で優勝
	昭和	41	4	1		競技規則改正22条 インターバル5分
	昭和	41	4	1		大会運営規定改正12章74条 副審削除
	昭和	43	4	1		大会運営規定改正12章73条 事故タイム削除
	昭和	44	4	1		競技規則改正22条 ダブルヒット削除
	昭和	44				第5回ユーパー杯決勝大会を東京で開催、日本初防衛 以後第6,8,9回大会優勝
	昭和	44				第1回全日本女子バドミントンチャンピオンズトーナメント大会開催
	昭和	44				アジアバドミントン連盟(ABC)に加盟
	昭和	44	8			NBA機関紙「バドミントン界」創刊
	昭和	46				第1回全国中学生バドミントン大会開催(東京都) 日本バドミントン協会主催
	昭和	47	4	1		競技規則改正22条 プレーヤーの定義、アバブザハンドの図追加
	昭和	47	8	15		大会運営規定改正13章80条 第10章表彰追加、天井8米 区域1.5米 余積1.5米 照度500ルクス
	昭和	47	7	23		公認指導員資格審査規定制定6章17条
1972	昭和	47	9	4		オリンピック(ミュンヘン)でバドミントンがデモンストレーション競技(4種目)として行われる。
	昭和	48	3			第1回全国高校選抜バドミントン選手権大会開催(栃木県真岡市)
	昭和	51	6	20		大会運営規定改正13章82条 第13章付則で2条追加
	昭和	51				アジアバドミントン連盟の決議に賛同して全英大会出場を断念
	昭和	52				第1回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会開催(札幌市)
	昭和	53				用器具検定工場制度始まる ポスト(ネットは1980年から)
1978	昭和	53				IBF分裂 世界バドミントン連盟(WBF)の設立(中国とマレーシア)
	昭和	55	6	10		競技規則改正22条 サービスの始まり(ラケットの前方への初めての動き)
	昭和	55	4	1		全国中学校体育連盟バドミントン部設立 部長・加藤 勝
	昭和	55	8			第10回全国中学校バドミントン大会開催(熊本市)全国中学校体育連盟バドミントン部主催
	昭和	55	8			「バドミントンマガジン」(ベースボールマガジン社)創刊

1979	昭和	56	1			ジャパンオープン大会(東京) 以後 YONEX OPEN JAPAN 大会となる
	昭和	56				第1回日本リーグ開催(東京他)
1981	昭和	56				IBFとWBFが和解してIBFとなる
	昭和	57	1	14	17	第1回YONEX OPEN JAPAN大会開催(神戸・西宮市)
	昭和	57	4	1		日本バドミントン協会財団法人認可
	昭和	57				第1回全日本ジュニアバドミントン選手権大会開催(東京都)
	昭和	57	5	1		競技規則改正23条 9月より羽根打ちサービスはフォルト 不法行為(スピードの妨げ、粗暴な振るまい)追加
	昭和	57	7	10		全国バドミントン理事長OB会設立 平成7年11月18日全国バドミントンクラブに名称変更
	昭和	58	10	15		用器具検定審査規定制定20条
	昭和	58	8	25		全国(家庭婦人)レディース連盟設立 会長・渡辺秀央(国会議員・郵政大臣)
	昭和	58				第1回全日本家庭婦人(現レディース)バドミントン競技大会開催(東京都台東区)
	昭和	59	9	10		競技規則改正23条 ラインの色は白または黄 セティングがセティングに 第21条(スピードの妨げは不法行為)追加 付則(障害者のバドミントン)制定
1984	昭和	59				IBF 国際審判員制度制定
	昭和	59				第1回全日本シニアバドミントン選手権大会開催(埼玉県上尾市)
	昭和	60	8	27	~28	第1回若葉カップ全国小学生大会開催(京都市)
	昭和	61	7	1		競技規則改正22条 ラケットの規定 第21条削除 解説1~4
	昭和	61	7	1		大会運営規定改正7章35条 役員要項解説追加 年次大会15 天井12m 区域2m 余積2m 照明1200ルクス 色着き着衣
	昭和	61	7	1		公認審判員規定制定42条 (旧審判員心得)
	昭和	62	4	1		競技規則改正21条 サービスの空振りはフォルト
	昭和	62	4	1		大会運営規定改正19条 オptionalテストマークの採用
1987	昭和	62				IBF RECOMMENDATIONS TO COURT OFFICIALS 制定 オptionalテストマーク採用
	昭和	63	4	1		競技規則改正19条 条項を整理して19条に、第5条ラケット、第6条用具の検定新設、
	昭和	63	4	1		大会運営規定改正8章39条 付録(要項 役員)
	昭和	63	4	1		公認審判員規定改正6条 審判用語1~21
	昭和	63	5	21		公認審判員資格登録規定制定5章21条 6グレード(1種A級~3種B級)
	昭和	63	5	21		公認審判員資格認定委員規定制定10条
1988	昭和	63	9	19		オリンピック(ソウル)でバドミントンがエキシビジョン競技(5種目)として行われる。
	昭和	63				第1回全国スポーツ・レクリエーション祭バドミントン競技(山梨県)
	平成	1	4	1		競技規則改正19条 第18条第6項改訂、解説8⑤削除
1989	平成	1	5	24	~29	第1回スディルマン杯大会開催(ジャカルタ) 優勝 インドネシア
	平成	1	5	24	~29	第1回スディルマン杯大会に参加
1990	平成	2	4	1		競技規則改正19条 解説2,5,6,8一部表現改訂
1991	平成	3	1	15		全国小学生連盟設立 会長・五十榎辰夫
	平成	3	9	20	~22	第1回全日本バドミントン混合複大会開催(愛媛県西条市)
	平成	3				日本リーグ2部設置
1992	平成	4	7	28	~8/4	オリンピック(バルセロナ)でバドミントンが正式競技となる。
	平成	4	2	8	~9	第1回全国小学生バドミントン選手権大会開催(横浜市)
1994	平成	6				IBF 国際レフェリー制度制定
1997	平成	9	4	1		競技規則改正19条 第5条ラケット改訂、アバブザハンドの図にバックハンドを入れる
	平成	9	4	1		公認審判員規定改正6条 シグナルのイラストが変わる
1999	平成	11	4	1		国際審判員資格者養成規定制定5章13条
	平成	11	8	17	~20	第1回全国高等学校定時制通信制体育大会バドミントンの部開催(小田原市)
2000	平成	12	4	1		「規定」が「規程」に変わる
	平成	12	4	1		公認審判員資格登録規定改訂 5章17条 4グレード(1級~3級、準3級)
	平成	12	8	25	~26	第1回全国小学生ABCバドミントン大会開催(宇都宮市)
2001	平成	13	3	27	~29	第1回全日本中学生バドミントン選手権大会開催(千葉市)
	平成	13				日本スポーツマスターズバドミントン競技2001開催(宮崎県)
2002	平成	14	5	3	~4	第1回日本バドミントンジュニアグランプリ開催(川崎市)
2005	平成	17	4	1		公認レフェリー資格登録規程制定5章16条
	平成	17	7	1		日本バドミントン指導者連盟設立
2006	平成	18	8	10		競技規則改正17条 定義にストローク追加、ハンドに関するフォルトは削除、ラリーポイント制、全種目21点3ゲーム、20オール後は2点リードしたサイドの勝ち、30点が最終、インターバルは11点のとき60秒、ゲームとゲームの間は120秒 ウェストの定義 審判用語一部改訂、障害者のバドミントン全面改訂
2007	平成	19	3	1	~3	第1回全日本レディース(個人戦)バドミントン選手権大会開催(東大阪市)
	平成	19				IBFはBWF (Badminton World Federation)にABCはBAC (Badminton Asian Confederation)にそれぞれ改称

2008	平成	20					競技規則他改正なし
2010	平成	22					競技規則改正 定義のストローク改正、審判用語一部改訂、障害者のバドミントン全面改訂 大会運営規程改正 第23条新設
2011	平成	23	4	1			日本協会が公益財団法人として認可
	平成	23	12	26	~28		第1回全日本教育系学生バドミントン選手権大会開催(東京・墨田区)
2012	平成	24	4	1			競技規則改正 定義のストローク改正、審判用語一部改訂、障害者のバドミントンがパラバドミントンに 大会運営規程改正 第1章第5条一部改訂 第2章第6条第1種年次大会22に 第4章 第22条 真剣なプレーをしない(新設)
2013	平成	25	8	10	11		第1回全日本学生バドミントンミックスダブルス大会開催(日本体育大学体育館)
2014	平成	26	4	1			競技規則改正 第9条第1項(6)一部改訂 パラバドミントン第17条にインスタントリビューシステム(IRS) 審判用語一部改訂 大会運営規程改正 第1章第5条一部改訂 第2章第6条第1種年次大会23に 第9条国際大会13に 公認審判員規程改正 第5条
2016	平成	28					日本リーグは Badminton S/J League と改称 日本リーグは2部とし3部を設置
	平成	28	4	1			競技規則改正 第9条第1項(6)一部改訂 審判用語一部改訂、大会運営規程改正 第1章 第9条国際大会14に 公認審判員規程改正 第3条第5項(6)②一部改訂
2017	平成	29	12	8	~		バドミントンS/Jリーグ開幕(富山・高岡市他)
	平成	29	11	16	~18		S/JⅡリーグ(日本リーグ改名) 開催(茨城・石岡市)
2018	平成	30	2	22	~24		S/Jリーグ2018入替戦&チャレンジリーグ 開催(東京・立川市他)
	平成	30	8	1			競技規則改正 第9条第1項(6)一部改訂シャトルの高さ1.15m以上 審判用語改訂 付録6 チャレンジシステムの概要と主審の処置追加 大会運営規程改正 第1章 第9条国際大会15に 公認審判員規程改正 第5条第5項(8)②一部改訂

以上